

資料2

# 「くしろ木づなプロジェクト」 (案) について

釧路市



## 本日の説明内容

- 1. 釧路市の森林・林業の概要
- 2. 釧路森林資源活用円卓会議での議論
- 3. くしろ木づなプロジェクト

# 1. 釧路市の 森林・林業の概要

## 釧路市の森林

- 経緯

平成17年10月

- ・ 阿寒町, 音別町, 釧路市の3市町合併
- ・ 森林面積は10万1千haに

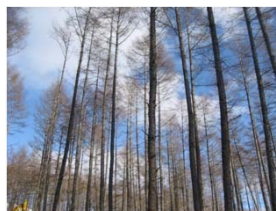
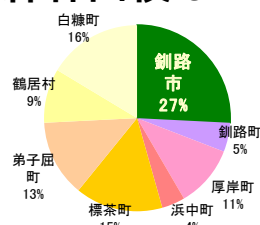


図-1 釧路管内森林面積割合

管内の約4分の1の面積

## 釧路市の各地区ごとの特徴

表－1 各地区ごとの人口、主要業種等

人口、森林面積	主要な業種
<b>釧路地区</b> ・人口173.3千人 ・森林面積 約5千ha	水産業、石炭産業、紙・パルプ産業、これらと結びついた食品関連産業や機械金属関連産業。ソフトウェア業やコールセンターも。
<b>阿寒地区</b> ・人口5.5千人 ・森林面積 約61千ha	農業、観光産業。
<b>音別地区</b> ・人口2.3千人 ・森林面積 約34千ha	医薬品製造業、食品製造業、水産用ロープなどの製造業、農業や林業。
<b>合併により、森林もあり、消費地もある“森林都市”に！</b>	

## 道内他都市との比較

表－2 道内都市(人口上位)の森林面積

市町村有林+私有林

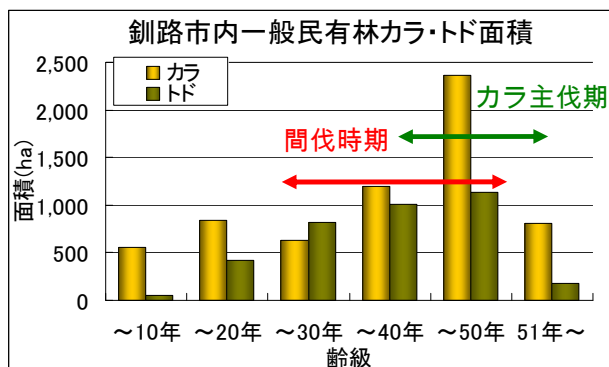
	人口	森林面積	うち一般民有林	うち人工林
札幌市	190万人	7万1千ha	1万5千ha	3.9千ha
旭川市	35万人	4万0千ha	1万1千ha	5.9千ha
函館市	28万人	5万3千ha	2万2千ha	7.5千ha
<b>釧路市</b>	<b>18万人</b>	<b>10万1千ha</b>	<b>4万5千ha</b>	<b>12.9千ha</b>
苫小牧市	17万人	3万4千ha	1万4千ha	4.8千ha
帯広市	17万人	2万6千ha	5千ha	2.6千ha

\*「住民基本台帳人口2011.6」北海道総合政策部、「H22林業統計」北海道水産林務部

・道内の都市として、有数の森林面積  
 <遠軽(11.7万)、足寄(11.6万)に続いて全道3位>

## 市内一般民有林資源の状況

- 人工林はカラマツ等を中心に約1万3千ha
- その多くが利用可能な時期に集中

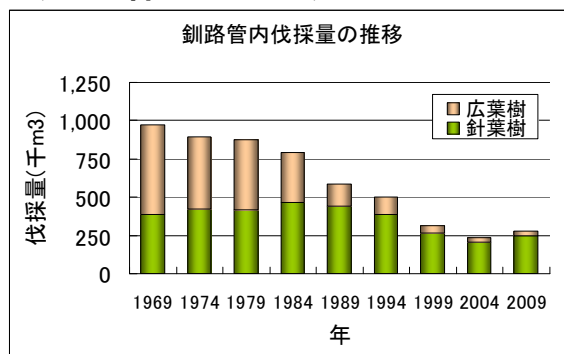


\*「林種・樹種・林相別森林資源構成表(H21)」北海道水産林務部

豊富な人工林資源の有効活用が望まれる

## 釧路管内伐採の現況

- 管内の伐採量は約4分の1に
- 天然林広葉樹から針葉樹主体へ  
(人工林へシフト)



\*「林業統計時系列版(H21)」北海道水産林務部

## 釧路管内製材の現況

- 伐採量に対し、管内の加工量は少
- 製材用途：梱包材が主、建築材少

《釧路管内カラマツ材の流れ(H20実績)》

◆管内伐採量

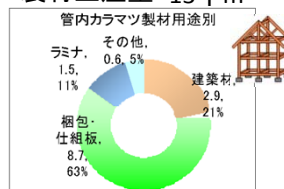


用途	伐採量
製材用	50千m <sup>3</sup>
合板用	42千m <sup>3</sup>
パルプチップ用	33千m <sup>3</sup>
その他	8千m <sup>3</sup>
	133千m <sup>3</sup>

◆管内製材工場

原木消費量 28千m<sup>3</sup>

製材生産量 13千m<sup>3</sup>



\* 北海道釧路総合振興局林務課聞き取り

## 釧路管内製材の現況（2）

- 地域内で高次加工し、販売する率を高める（同時に外にも売っていく）ことは、地域にとって有利

（例）カラマツ素材（径20～28cm）：9,700円/m<sup>3</sup>

カラマツラミナ：23,100円/m<sup>3</sup>

カラマツ正角：38,700円/m<sup>3</sup>  
(3.65m×10.5cm×10.5cm)



## 市内の製材工場等の動向

- 近年、市内の製材工場等が倒産・休止  
（木材需要の低迷、  
リーマンショックの影響等）
- H20 プレカット工場
- H21 製材工場（森林組合）
- H22 住宅建築・販売会社  
（道産カラマツ材使用）

## 木材関連の従業者数等

表-3 木材・木製品製造業従業者数等の推移

	年度	事業所数	従業者数(人)	出荷額等(万円)
全道計	H12	691	13,172	22,098,213
	H17	524	9,717	16,343,029
	H21	418	7,545	14,512,061
釧路市	H12	23	300	369,331
	H17	21	218	198,459
	H21	11	109	139,739

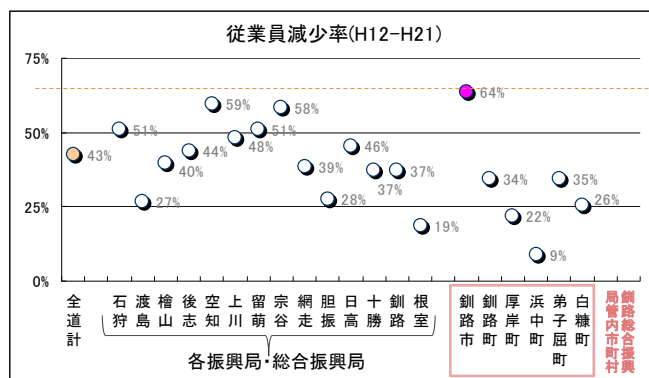
\* 旧阿寒町、旧音別町分を含む。  
「工業統計(H21)」北海道総合政策部

市内従業者数は約3分の1に

## 木材関連の従業者数等（２）

- 減少率は64市町村で14番目の高さ（64％）

図－「木材・木製品製造業従業者減少率」



\* 「工業統計(H21)」北海道総合政策部、従業者4人以上の事業所のみ計算

→釧路市は他地域に比べ減少率大きい

## 2. 釧路森林資源活用 円卓会議での議論

## 円卓会議の目的等

### 「釧路森林資源活用円卓会議」

- 目的  
釧路市有林をはじめとした  
釧路市内の森林資源の活用策を検討
- 設置時期  
H22.11  
(川上部会H22.12)  
(川下部会H23. 2)



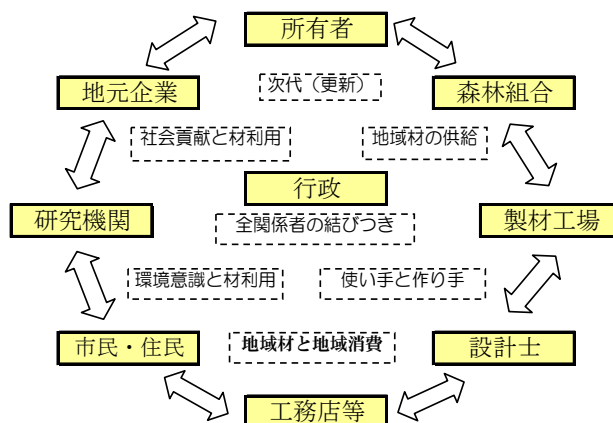
## 円卓会議メンバー構成

- 林業・木材産業事業者、酪農業、木質バイオマス利用事業者、研究機関など、木を取り巻く様々な関係者が参画（H23.7現在、27名）
- 座長：釧路地方林業会 鈴木会長
- 副座長：釧路工業技術センター 綿貫センター長
- 川上部会：釧路地方林産振興会 大澤会長
- 川下部会：北海道木質構造開発協議会 長谷川会長





## 円卓会議の目指すところ



図一 地域内の結びつきを強めた循環のイメージ

地域内の結びつきを強め、循環を促進  
\*釧路、阿寒、音別各地域の事業者参加

## 検討内容

- 釧路市有林の有効活用策
- 木材供給側（川上）での地域特性に応じた森林施業とコスト削減策
- 地域材利用の拡大策  
（高付加価値製品の加工・流通）



## 会議の進め方

- 部会では現地での検討も交える
- 課題を整理し、情報を共有



## これまで挙げられた課題

項目	課題
資源	利用可能な「量」が不明
安定供給（原料確保）	地域の木材が「安定的」に供給されない
性質・品質	木材性質に難（利用の手法（技術）が普及していない）
価格	地域材の利用に「コスト」が掛かりすぎる
説明・人材育成	木材・地域材を利用する「地域の共通認識」が不足
プロモーション	木材・地域材を利用することメリットの認識不足
品質管理	満足できる「品質」の木材が供給されない
使用用途	必要条件が満たされず画一的な木材利用が行われている
商品開発	顧客ニーズにあった商品が提供されていない
ブランド化	地域材を利用するインセンティブが不十分
連携	地域内での連携が薄い
行政との連携・補助	（コストに見合うだけの）メリットがない

**解決に向けた「行動」へ！**

### 3. くしろ木づな プロジェクト

#### くしろ木づなプロジェクト

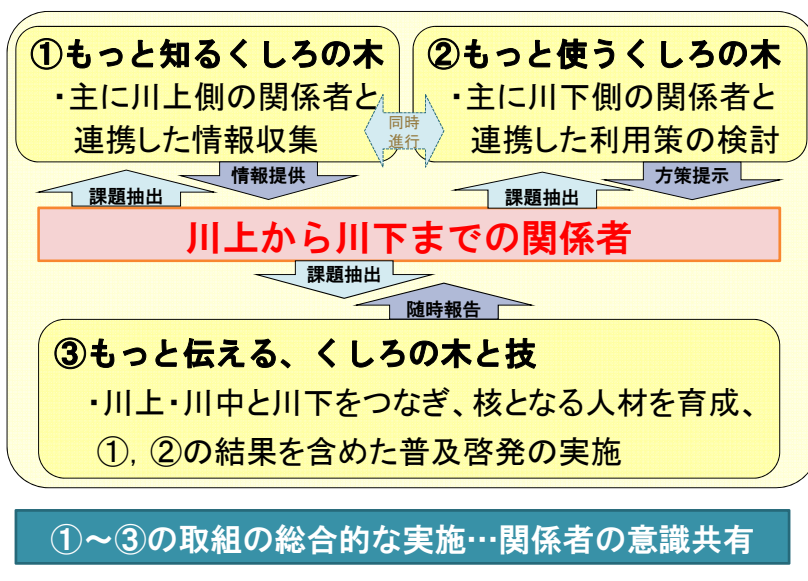
- 地域の課題  
地域内での、地域の木材消費向上
- 内容  
地域の“結びつき”を強める、  
地域材利用推進プロジェクト。

「木」が「つな」ぐ、市町内の“絆”

## プロジェクトの目標等

- プロジェクトの目標  
地域の木材を地域内で  
高次加工・利用する体制整備
- 事業構成
  - ① もっと知る くしろの木
  - ② もっと使う くしろの木
  - ③ もっと伝える くしろの木と技

## プロジェクトの全体像



## 地域関係者意見の把握

- ①企画立案、②事業実施体制  
→いずれも円卓会議メンバーと協議
- 多様な主体が参画
- 地域（旧市町）相互の連携・補完



## ①もっと知る くしろの木

- 経験による情報の数値化、地域で共有
- 不明な点は、新たに調査

### <資源状況の把握>

◎出材可能性調査  
搬出容易な資源が  
どの程度あるか図示化

### <品質の把握>

◎強度試験, ◎燃焼試験  
木材としての強度等を  
数値で確認

### <流通状況の把握>

◎流通コスト調査  
林地未利用材が搬出  
可能か調査



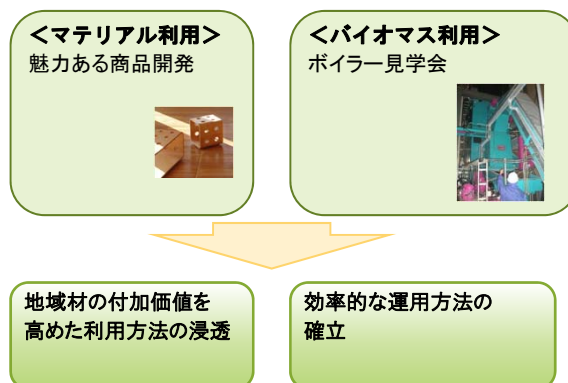
適切な資源管理を基本  
とした持続的・安定的な  
材の供給

地域材の品質を明確に  
示し、木材に対する  
ユーザーの信頼を構築

流通状況の分析による、  
現状流通コストの明確  
化とコスト低減

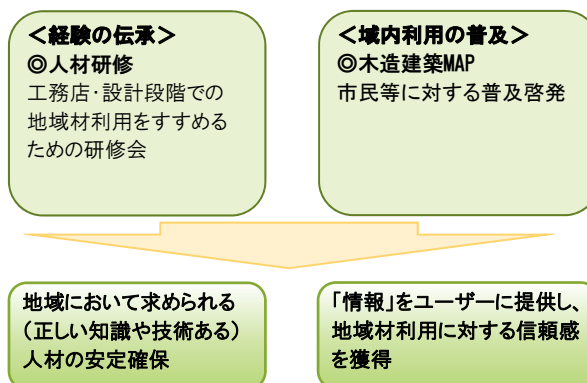
## ② もっと使う くしろの木

### ● 地域内での幅広い使い道検討



## ③ もっと伝えるくしろの木と技

- 地域材継続利用のための人材育成
- 利用するエンドユーザー(応援団)増加



## 取組内容の独自性（先駆性）

- 森林もあり、消費地でもある合併地域ならではの取組。
- 各地域の事例を紹介しあい、アイデアを出し合いながら取組を進める。



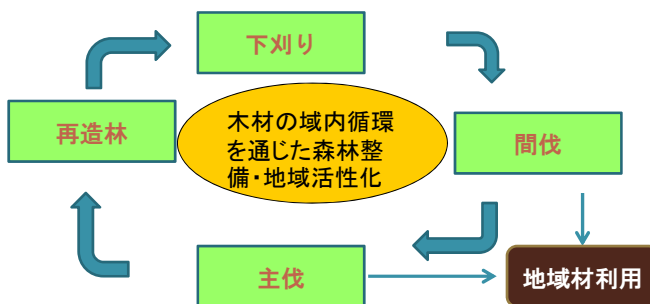
## 地域の資源・資産の活用や他分野への波及効果（優位性）

- 地域の豊富な資源である「森林」を活用する取組
- 環境負荷の低い資源を有効活用する取組は環境分野へも波及（環境に配慮した取組を進める街）



## 地域の資源・資産の活用や他分野への波及効果（優位性）（2）

- 素材生産や製材等各部門で雇用
- 伐採後確実な再造林、下刈り、間伐を行うことによる循環型の森づくり  
→地元での継続的な雇用増



## 地域重点プロジェクトとの関連

### 《森を育み、森に親しむ 「釧路の森林づくり」プロジェクト》

…「地材地消」の取組、  
循環型森づくりの推進  
→関連性大

- 釧路総合振興局からも  
円卓会議には、  
オブザーバ参加  
→アドバイスのもとで取組



今後も、国・道など関係機関とも連携した取組を進めていきたい。



## プロジェクトで期待される効果

- 地域の資源を再認識  
（合併市町内の結びつき）
- 人材の安定確保
- 生活圏・経済圏が  
同一周辺町村へ波及  
（モデル的な実施）



**圏域住民の定住にむけて、  
結びつきを深めていく！**